

8 学校アクションプラン

重点項目	学習活動	
重点課題	家庭学習の充実(生徒)と教師の授業力向上	
現 状	<p>(1)本校では家庭学習時間を1日平均4時間以上(1週間で28時間以上)確保するよう指導しているが、目標を達成している生徒がいる一方で平均2時間を下回る生徒も見受けられる。また、目標時間を確保しながらもなかなか成績の向上に結びつかない生徒も見受けられる。</p> <p>(2)生徒の実態は年々変化しており、それと共にこれまでの講義形式の授業だけでは、生徒の主体性を十分に引き出すのが難しくなっている。教師は「学び合い」「ICTの活用」など、授業形態に工夫を凝らした、魅力ある授業を展開し、生徒の主体性の引き出しや学力のより一層の伸長を模索する必要がある。</p>	
達成目標	<p>〔家庭学習の充実〕</p> <p>①1・2年生の学習時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら計画した家庭学習時間を達成した生徒の割合70%以上</li> </ul> <p>②効率的な学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的で効率的な学習ができるようになり、学習の総量が増える生徒の割合80%以上。</li> </ul>	<p>〔授業力向上〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学び合い」を行った授業の割合80%以上。</li> <li>・主体的に授業に参加した生徒の割合80%以上。</li> </ul>
方 策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体指導の強化に加え、担任および教科担当者による面接等を通し学習時間の確保に問題をかかえる生徒を重点的に指導する。</li> <li>2. 時間の使い方について日頃から指導し、学習効率の向上に取り組ませるなど、学習の質を上げようとする意識を持たせる。</li> <li>3. ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、さらに効果的な利用法について研究を進める。</li> <li>4. 各教科・科目において「学び合い」・ICTを活用した授業等を計画的に設定し、生徒の主体性を引き出す。</li> <li>5. 進路指導部と連携し、課題の質および量の適正化をはかる。また、学習計画が正しくできているかを担任および教科面接を通じて指導する。</li> </ol>	
達成度	<p>① 予習・復習を計画的に進められた生徒の割合</p> <p>1年 [12月] 予習55.2% 復習36.3% (3教科)</p> <p>2年 [12月] 予習44.5% 復習40.3% (5教科)</p> <p>3年 [12月] 予習56.5% 復習45.3% (5教科)</p> <p>②「1学期より計画的で効率的になった生徒」</p> <p>1年 [1月] 66% (85%) 2年 [1月] 78% (80%)</p> <p>「1日あたりの学習総量が増えた生徒」</p> <p>1年 [1月] 58% (79%) 2年 [1月] 67% (76%)</p> <p>※( )内は昨年の数値</p>	<p>①「学び合い」</p> <p>1年 [7月] 74%(88%) [12月] 78%(79%)</p> <p>2年 [7月] 67%(94%) [12月] 82%(76%)</p> <p>3年 [7月] 80%(94%) [12月] 76%(76%)</p> <p>②主体的に授業に参加</p> <p>1年 [7月] 82%(75%) [12月] 81%(83%)</p> <p>2年 [7月] 82%(78%) [12月] 81%(78%)</p> <p>3年 [7月] 83%(87%) [12月] 83%(88%)</p> <p>※( )内は昨年の数値、全校生徒対象</p>
具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 担任による面接を年間5回以上行い、学習状況の把握、学習習慣や生活習慣の見直し・改善に向けたアドバイス等を行っている。</li> <li>2 学年集会等で「スケジュール帳」活用の具体的を提示し、夏休み・冬休み・春休み直前には「しおり」を通して指針を示すなど、時間の自己管理について指導している。</li> <li>3 9月の学習時間調査前に体育大会や文化活動発表会など2大行事後の生活の見直しを指導している。気が緩みがちな時期であり、1月にも調査を実施し、経過を見る。</li> <li>4 主体的・対話的で深い学びを学校全体に促し、「学び合い」の導入やICT機器(タブレットを含む)の活用を含め、授業改善に努めてもらうよう呼びかけている。</li> </ol>	
評 価	C	B
	<p>①予習や復習について、約半数は計画通りに進められているが、残りの約半数はそうでない状況である。特に2年生は理科・社会にまだまだ手が回っていないようである。英数国と理社のバランスの取り方について意識させる必要があると考える。</p> <p>②どの項目も昨年を下回っているが、休校や部活動の制限から1学期の家庭学習時間が例年より多かったため、家庭学習の総量が増えた印象があまり無いのではないかと考えられる。しかし、学習の質や総量が向上していると回答する生徒も多くおり、さらなる改善を呼びかけていきたい。</p>	<p>「主体的に授業に参加」については、80%以上の生徒が主体性を持って授業に臨んでいるとなっている。年度当初は休校等の影響もあり「学び合い」の割合が少なかったが、12月には昨年と同様な結果が得られている。近年、「学び合い」の定着により、生徒自身が主体的に授業に参加する意識が向上している。今回の結果に満足することなく、次年度に向け、生徒の主体性を引き出す授業の研究を続けていきたい。</p>
学校関係者の意見	<p>保護者からは「子供が精一杯取り組んでいた」「効率的な学習時間の使い方をよく考えていた」等、子供の取り組みを評価する声がある一方、「一学期は部活がなく家庭学習ができていたが、部活が始まると両立できなくなった」「課題が多すぎて自ら計画した学習ができない」等、心配する声も寄せられた。また、「課題の量より質を高めてほしい」「教科ごとの時間配分バランスをどうすればいいかアドバイスしてほしい」等の要望があった。学校評議員からは「達成目標が生徒の主体性に任せる形になっていてよい」「今年は特殊な年であり、評価の他に事実調査もしたらよい」等の助言を受けた。</p>	
次年度へ向けての課題	<p>学習習慣の定着や効率的な学習がうまくできていない生徒に対して、学習総量を増やし、さらに学力を向上させるための仕掛けを年間を通じて行う粘り強い指導が必要である。予習や復習についても、具体的な教材や取り組み方の例を示すなど工夫が必要であると考える。</p>	<p>「学び合い」や「ICT機器の活用」の研究を通して、生徒の主体的学習態度を引き出し深い学びに繋がるような授業改善を行っていく。また、新たに生徒アンケートを実施・分析するなどし、問題点を洗い直し、さらなる授業の改善をおこなってきたい。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和2年度 富山高等学校アクションプラン-2-

重点項目	学校生活													
重点課題	基本的な生活習慣の改善	健康的な環境づくりに努める知識や能力の向上												
現 状	<p>本校では『生活あつての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしている。しかし、スマートフォン等を長時間使用し、学習に支障をきたす生徒も見受けられる。また、スマートフォンの利用時間は、最近数年は増加の傾向にある。</p> <p>素直で真面目であるが、現実柔軟に対応できず悩みを抱えてしまう生徒が多く、高校生活に適應しづらくなっている生徒が増えている。学習への精神的圧迫からか1年2学期から2年1学期にかけて不登校気味になる生徒が見受けられる。また3年2学期に欠席が増える傾向がある。</p>	<p>日常の清掃及び月例大掃除の指導を通して、環境を整えることの意義や協力の大切さ、時間の使い方等を理解させたいが、以下の課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃の意義を理解し、主体的に取り組む姿勢に乏しい。</li> <li>・授業終了後、一斉に清掃し、早く放課後課外活動を始めよう、という意識が薄い。</li> <li>・漫然と清掃し、協力して手際よく行おうという工夫が不足している。</li> </ul>												
達成目標	<p>①スマートフォンの、学習活動・生徒間連絡利用以外の使用時間の目標を定め、使用時間の短縮を目指す。</p> <p>②個人情報のSNSへの安易な書き込みの防止。</p> <p>③面接を通し生徒理解・生徒の自己指導能力開発に努める。</p> <p>①各自使用時間の目標を決め、その達成度を5段階で評価。評価3以下はどちらともいえない、評価未達成とし、4概ね達成、5達成とする。4以上の生徒割合が60%以上。</p> <p>②ネットハトロール等外部から指摘を受けるような他人の個人情報掲載、著作権違反、他への中傷記載などなくす。</p> <p>③面接を年5回以上行う。また、必要な場合は不定期にも行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内清掃を、清掃の大切さと清掃が生活向上につながることを認識できる生徒の割合を9割以上にする。</li> </ul>												
方 策	<p>1. スマートフォンは学習活動・生徒間連絡に不可欠なものとなりつつあるが、生徒に対して講演会を実施するほか、教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、使用時間を控えさせる。</p> <p>2. 個人情報の安易な開示・書き込みなどについての危険性について生徒の意識向上を図る。</p> <p>3. 学習等学校生活に対する悩みを抱えていると考えられる生徒には、担任や学年主任・学年担任が面接をするとともに、教科担当者等と連携し改善を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃強化週間を設定し、清掃の取り組み意欲を向上させる。</li> <li>・アンケート調査により、生徒の清掃に対する意識変化をみる。</li> <li>・外部講師の講演(希望者対象)で、健康的な環境作りに関する意識の向上を図り、全校生徒へ波及させる。</li> </ul>												
達成度	<p>①スマホの使用時間目標達成度(学習目的も含む)%</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年</td> <td>2年</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>評価4または5</td> <td>29%</td> <td>29%</td> <td>29%</td> </tr> <tr> <td>評価3</td> <td>38%</td> <td>39%</td> <td>39%</td> </tr> </table> <p>②個人情報記載等に関して外部機関からの指摘なし。</p> <p>③面接に関しては今年度Teams活用による面談も多く取り入れ、概ね目標を達成できたと思われる。(面接回数は質問せず)</p>		1年	2年	計	評価4または5	29%	29%	29%	評価3	38%	39%	39%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒対象の8月と11月の2回のアンケート調査で、「清掃が大切である」と回答した生徒は97%と96%、「校内環境美化が学校の活力や雰囲気に影響する」と回答した生徒は92%と93%など、概ね目標は達成しているが、「清掃や環境美化が生活の向上・学力の向上につながる」と回答した生徒は82%と83%で、目標を下回った。</li> </ul>
	1年	2年	計											
評価4または5	29%	29%	29%											
評価3	38%	39%	39%											
具体的な取組状況	<p>①スマートフォンの適切な使用については、集会やHR、生徒同士の話し合いを通じて使用時間、方法について考えさせ、意識の高揚を促した。</p> <p>②長期休業中の注意事項でも安易な個人情報の書き込みの注意を促した。</p> <p>③他の分掌部会とも連携を図り、コーチングについての研修会を企画・実施した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査による事前(8月)事後(11月)の清掃意識に関する調査をした。</li> <li>・10月予定の外部講師による講演会「頭が良くなるそうじ力」で、清掃が、学力を含む人生全般に好影響を与えることを具体例を挙げて語ってもらう予定であったが、コロナ禍で中止となり、啓蒙活動の柱がなくなった。</li> <li>・11月に清掃強化週間を設け、環境整備委員会が中心となり全クラス生徒で重点箇所の清掃チェックをおこない意識の向上を図った。</li> </ul>												
評 価	<p>① C ② A ③ B</p> <p>①スマートフォン使用時間の目標達成度は評価4以上29%ではあったが、評価3が38%。目標未達成の割合が31%であった。未達成の生徒は少ないものの、現状維持の生徒が多かった。来年度は概ね達成以上を増やしたい。</p> <p>②安易な個人情報書き込みの危険性は生徒にも浸透しつつあると思われる。</p> <p>③悩みを抱え不登校気味の生徒には学年主任、学年代理、学年の教科担当者に加え生徒指導部も面談を行った。研修会にはそれぞれの出席者は問題意識を持ち、概ね意欲的に参加していた</p>	<p>10月の外部講師の啓蒙を受けた後に「清掃強化週間」で生徒一人ひとりが清掃意識を高めながら清掃に取り組み、成果を実感する予定であったが、講演会が中止となり、清掃強化週間のみ実施することとなった。環境整備委員会が清掃強化週間時に、積極的な取り組みを各クラス生徒に働きかけをおこなったが、アンケートからは清掃意識向上の変化はみられなかった。</p>												
学校関係者の意見	<p>保護者より「スマートフォンに時間を支配されている」「家で指導していないため反省している」「使用時間の目標設定は良い取り組みだ」「本人は努力していた」という声の他、「学習、生活にスマホは不可欠になっている」「オンライン授業等スマホ等の使用機会は増加している」「オンラインで子供同士の勉強会をしている」等、スマホとの付き合い方を親も一緒になって考えさせるべきとの意見もあった。学校評議員からはまず3割の生徒が意識を持って使用した点が評価され、達成できなかった7割の生徒の理由を調べておくべきとの助言があった。</p>													
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンの使用頻度について在宅学習システムの導入等で増加する傾向にある。生徒間での問題意識を高め、学習への利用法、また学習以外の利用について適切な使用方法を考えさせたい。</li> <li>・面接は今後も充実したものとなるように努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の現状では、生徒委員会活動を通じて、清掃・環境美化が幅広い人間力の向上につながることを啓蒙し、外部講師が活用できるようになれば、講師指導のもと実体験を交えるなどして清掃に主体的に取り組める姿勢の涵養をはかっていきたい。</li> </ul>												

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人ひとりの適性に応じた進路指導の支援とその実践	
現 状	1 具体的な進路目標の決定が遅く、目標達成に向けた自主的で意欲的な学習に結びついていない生徒が少なくない。 2 一人ひとりの生徒に応じた進路支援を行うよう努めているが、生徒自らが自己の適性や能力を十分に考えて進路目標を定めているとは言いがたく、自己を過大あるいは過小に評価し、進路目標を設定してしまう生徒が見られる。	
達成目標	①「学習・生活習慣の確立」	②「進路目標(志望校)の設定」
	・規則正しい生活と、学習習慣確立の手立てとして、普段から「スケジュール帳」を活用している生徒の割合が60%以上。	・第一志望校が、2年3学期時点で決定している生徒の割合が90%以上。
方 策	1. 三点固定を意識した規則正しい生活を送り、学習習慣が定着するように、「スケジュール帳」を積極的に活用させる。 2. 高い進路目標を持つ集団を、補講や大学志望別集会などを通じて早期に形成させ、お互いに切磋琢磨できる環境を学校生活のさまざまな場面で育成するように努める。 3. 学年集会や学習や進路のしおり、講演会等を通して、生徒にとって必要かつ有意義な進路に関する情報の提供ができるように努める。 4. 「キャリア・パスポート」の作成や、社会人や大学生を招いたキャリア教育により、主体的に学びに向かう力を育むことができるように支援する。	
達成度	6月と1月に実施した生活実態調査での「スケジュール帳」利用状況については以下の通りであった。 1年:54%→9% 2年:18%→9% 3年:48%(6月のみ) ※数値は、6月(%)→1月(%)の推移。3年生の生活実態調査は6月のみの数値 ※第1回目の調査は、例年4月に実施しているが、コロナ禍による休校のため6月に実施	令和3年1月現在での第一志望校を決定している生徒の割合は99%であった。その内訳は、国立大学を志望するものが95%、その中でいわゆる難関大学を志望するものが52%、医学科を志望するものが4%である。
具体的な取組状況	担任による面接指導や学年集会、行事で利用するなど、「スケジュール帳」の活用を促した。	年間を通して、学年や担任との定期的な面談指導を実施した。特に、難関と言われる大学を目指す生徒には、学習グループを立ち上げ、学年の生徒が一体感を持って取り組むような環境を整備した。
評 価	D	A
	1・2年生ともに学期が進むにつれ、使用頻度が極端に減少した。どの学年の生徒もあげているおもな理由は、「記入が面倒である」「記入の習慣が身につけていない」と「スマホなど他のものを利用している」であった。学年が進むにつれて、学校指定以外のものを利用すると回答した生徒が多かった。しかし、「利用していない」と回答した多くの生徒も、「スケジュール帳」を利用する意義と目的は理解していると回答した。	自らの成長のために、高めの進路目標の設定を推奨しており、多くの生徒が意欲的な設定をしている。次の段階として、現在の志望校を「受験校」にし、「合格校」にするには、相当な努力が必要であることを認識させ、自主的で意欲的な学習態度が身につくよう考えさせていきたい。
学校関係者の意見	保護者より「スケジュール帳の活用と三点固定の指導はよい」「もっと活用させてほしい」「継続でいいが記入負担を減らして」等の意見と、「利用率の低さから見直しをしてほしい」「自分の使用しやすさのものを使っている」「スケジュール管理は必要なことだが、市販のものでもよい」「スケジュールを立てることに時間をかけすぎないようするべき」等の意見があった。「進路目標の設定」については、1年次より進路について考える機会が多くあり、目標設定や意欲につながっている等の意見をいただいた。学校評議員より、計画的にできない生徒の指導や、計画の大事さをどう伝えるかが大切との助言を受けた。	
次年度へ向けての課題	「スケジュール帳」を利用した学習マネジメントの必要性は、多くの生徒が理解していることから、今後も何らかの形による「スケジュール帳」の使用は継続すべきである。本校独自のものを利用するかどうかについては、再考する段階にきている。スマホや市販のものを利用することでも十分な効果が期待できるからであり、また「利用しにくい」と回答した生徒ほど、自分にあったものを利用している。 学習効果がより高まる方法の模索と、生徒一人ひとりに適するものを長期的に面談等で指導していく。	2年生の今現在での志望校が合格校になるような学習指導が必要である。1月に実施された「大学入学共通テスト」の結果から、生徒の学習における問題点も明らかになった。教師には、授業での工夫や長期的な見直しをもった指導がますます求められ、生徒も暗記学習から、「学ぶ喜び」や「奥深さを知る」学習への転換が求められる。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和2年度 富山高等学校アクションプラン-4-

重点項目	特別活動の充実	
重点課題	学校行事への主体的な取り組みと3年次における部活動からの切り替え	
現 状	学校行事は生徒の主体的活動を促し、実生活における思考力、表現力、判断力の礎となる重要なものである。さらに主体的な学びを促進する重要な機会でもある。本校では生徒と教職員が協力して生徒会や実行委員会で諸行事を運営しているが、ややすると教師の指示を仰ぐ姿勢であったり、前年度を踏襲するような姿勢が見受けられる。また参加する生徒の中には消極的な態度であったり、参加する意義を見いだせていない様子もある。年間の行事の意義や各行事の目的・方法を確認するとともに、生徒の意識調査を通じて今後の学校行事への意欲的な取り組みにつなげていきたい。また、9割以上の生徒が部活動に所属していることから部活動に参加することがより良い学校生活や進路選択につながるように支援していきたい。	
達成目標	1.本校の二大学校行事(体育大会、文化活動発表会)に自ら協力できたと感じる生徒が80%以上。 充実していたと感じる生徒が85%以上。	2.部活動の引退後、1ヶ月以内に進路選択に切り替えられる生徒が80%以上。
方 策	1.年間における特活行事の時期・目的・内容等の検討を行う。 2.主な学校行事(体育大会、文化活動発表会、)に対して以下の項目を中心にアンケートを実施する。①準備や運営に自ら協力できたか。②この行事は充実していたか。③その他意見 3.部活動の引退後、早期に進路の決定に向けて意欲的に取り組むことができたかアンケートを取り、指導に役立てる。	
達成度	アンケート調査の結果は以下の通り。 体育大会の内容に満足 83.9% 体育大会の運営は 生徒中心に感じた 65.6% 生徒と教師が協力していた 37.6% 文化活動発表会の内容に満足 72.8% 文化活動の運営は 生徒中心に感じた 65.0% 生徒と教師が協力していた 27.2% となった。	学習への切り替えについてのアンケート結果は以下の通り。 気持ちを切り替えることができた 41.9% 気持ちを切り替えることができなかった 17.2% むしろ大会がない方が良かった 15.1% 部活動と学習に関係性は感じていない 26.9% となった。 またアンケートの欄外に「かなり葛藤した」という書き込みも数名見られた。
具体的な取組状況	体育大会実行委員・生徒会執行部がそれぞれ工夫して運営を行った。規模の縮小、感染対策など自ら考え実行していた。自主性という面では良く考えて運営していた。	生徒たちは、うまく気持ちを切り替えて学習に取り組んでいたように思われる。
評 価	B 体育大会実行委員や執行部が運営の中心となる形は根付いてきたように思われる。次の課題は一部の生徒に運営が集中する現在の形を、生徒全員が企画の段階から運営まで関与する形にしていかなければならない。 生徒集会などの形で多様な意見を吸い上げ、また実行委員や執行部の活動が「目に見える」ようにしていくべきである。	A 生徒たちは意図しない引退を強いられたが、苦悩や葛藤はあるものの、うまく気持ちを切り替えて学習に取り組んでいたように感じる。今後は「3年生は引退すれば学校行事に関与しない」という現在の状況から一歩進化させ、3年生の生徒主催による学習会の開催など、つぎの段階に踏み出す必要があると感じられる。
学校関係者の意見	保護者より「様々な制約の中でできることをしてもらい感謝している」「子供はとても満足していた」「思い出に残る行事で楽しめた」「ケーブルテレビでの放映を見ながら楽しそうな話をしていた」との声があった。また、「この二大行事は縮小してもいいが実施してほしい」「一部の生徒主導にならないよう配慮してほしい」等の意見もあった。「部活動からの切り替え」については、「発表機会がなくなり、うまく切り替えができなかった」「部活動を本当に楽しんでやっているので切り替えができるか心配」等の声があった。	
次年度へ向けての課題	生徒主体の行事運営は根付いてきていると感じられるが、実行委員や執行部の取り組みが一般生徒に伝わっているかという点には大いに課題が残る。積極的な情報の発信など、活動の可視化が求められている。 コロナ禍は当面継続すると考えられる。これを機会に行事の精選や、更なる生徒主体の行事運営に向けて変革を続けていかなければならない。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和2年度 富山高等学校アクションプラン-5-

重点項目	科学教育の推進																																								
重点課題	科学的思考力の習得																																								
現 状	めまぐるしく変化する現代においては「知識が豊富であること」だけでは対応できなくなっている。「知識」を「知恵」に変えて生きていくためには、「自ら課題を設定し、論理的に思考し、問題を解決する力」が必要となる。それらを育む効果的な教育課程が求められている。																																								
達成目標	①[課題発見力・論理的思考力の育成]	②[意欲的学習態度の育成]																																							
	※「ポスターセッション自己評価」 上記自己評価を実施し、「批判的」「協働的」「創造的」思考力の育成・確認を行う。各項目の判定「3以上」の生徒(探究科学科)の割合 80%以上	※「意識(興味・関心・意欲)調査」 「探究力」や「論理的思考力」を育成する学習に意欲的に取り組んだ探究科学科の生徒の割合 80%以上																																							
方 策	1 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」の指導内容・指導方法を十分研究し、その教育課程について授業担当者の共通理解と密接な連携のもとに実施する。 2 単元ごとの自己評価に基づき、生徒自らより高い目標を設定し主体的に学習に取り組むことで、高い学力を形成できるよう指導する。また生徒の将来に必要な力を育むための教育課程であることを自覚させ、意欲的に取り組ませる。 3 「探究力」や「論理的思考力」を育成する学習を、1・2年普通科「総合的な探究の時間」の指導にも取り入れる。																																								
達成度	2年12月「批判的」「協働的」「創造的」思考力の観点をふまえた自己評価結果 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> <th>3以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①批判的思考力</td> <td>72.5</td> <td>15.0</td> <td>7.5</td> <td>5.0</td> <td>87.5(昨年度83.4)</td> </tr> <tr> <td>②協働的思考力</td> <td>71.3</td> <td>22.5</td> <td>5.0</td> <td>1.3</td> <td>93.8(昨年度87.1)</td> </tr> <tr> <td>③創造的思考力</td> <td>68.8</td> <td>22.5</td> <td>7.5</td> <td>1.3</td> <td>91.3(昨年度72.9)</td> </tr> </tbody> </table>		4	3	2	1	3以上	①批判的思考力	72.5	15.0	7.5	5.0	87.5(昨年度83.4)	②協働的思考力	71.3	22.5	5.0	1.3	93.8(昨年度87.1)	③創造的思考力	68.8	22.5	7.5	1.3	91.3(昨年度72.9)	1年12月「意識(興味・関心・意欲)調査(3段階評価)」の実施結果 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>&lt;到達度 4~1 4段階&gt;</th> <th>単位%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>&lt;段階3:よくできるようになった、2:できるようになった、1:変わらないの割合&gt;</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>「検証のための調査や実験を興味をもって行った。」</td> <td>3 77.2%</td> <td>2 21.5%</td> </tr> <tr> <td>「仮説とその検証方法について意欲的に考えた」</td> <td>3 54.4%</td> <td>2 43.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1 1.3%</td> <td>1 2.5%</td> </tr> </tbody> </table>		<到達度 4~1 4段階>	単位%	<段階3:よくできるようになった、2:できるようになった、1:変わらないの割合>			「検証のための調査や実験を興味をもって行った。」	3 77.2%	2 21.5%	「仮説とその検証方法について意欲的に考えた」	3 54.4%	2 43.0%		1 1.3%	1 2.5%
	4	3	2	1	3以上																																				
①批判的思考力	72.5	15.0	7.5	5.0	87.5(昨年度83.4)																																				
②協働的思考力	71.3	22.5	5.0	1.3	93.8(昨年度87.1)																																				
③創造的思考力	68.8	22.5	7.5	1.3	91.3(昨年度72.9)																																				
	<到達度 4~1 4段階>	単位%																																							
<段階3:よくできるようになった、2:できるようになった、1:変わらないの割合>																																									
「検証のための調査や実験を興味をもって行った。」	3 77.2%	2 21.5%																																							
「仮説とその検証方法について意欲的に考えた」	3 54.4%	2 43.0%																																							
	1 1.3%	1 2.5%																																							
具体的な取組状況	<p>【探究科学科1年】</p> <p>6~7月に、「論理的に考えることとはどのような思考か」というコンセプトのもと、教材を用いて学習を重ねた。 7月に、人文社会科学科は、立山博物館から講師を招き、立山信仰、曼荼羅絵図の絵解きの講義を受ける。(巡検研修の代替) 理数科学科は、KAGRA、カムランド、飛騨天文台などから講師を招き、最先端の研究に関して講義を受ける。(巡検研修の代替) 9月の文化活動発表会において研究発表を行い、その後は班に分かれ課題研究に取り組み、その成果を12月に科内ポスターセッションで発表した。同時期に、2年生主体の三校合同課題研究発表会に参加し、レベルの高い発表を聞くことで経験を積んだ。 2月に「サイエンス・イアログ」を実施し、大学や研究機関で活躍している若手外国人研究者から、英語で研究の話を書く経験を通して、研究活動に対する関心・意欲を高めた。</p> <p>【探究科学科2年生】</p> <p>6月より各班の計画に従い、探究活動を行った。富山大学教官による指導助言を受け、課題研究テーマの方向性について調整を図った。 9月の文化活動発表会、12月の三校合同発表会でポスターセッション形式のプレゼンテーションを行った。 3学期は、これまで行った発表を研究集録に残すための作業を行い、2月には科内発表会を開き、互いに質問や意見交換をする中で内容を深め、探究活動を締めくくった。</p> <p>【普通科1・2年】</p> <p>1学期に「論理的思考力」を育成する学習を4時間実施した。その結果、文化活動発表会では、「仮説をたてて、検証を試みる」という手順を含む内容が、定着してきている。</p>																																								
評 価	A	A																																							
	例年より研究期間が短く心配されたが、その分集中して研究に取り組んだ生徒が多く、ポスターセッションによる発表に対し達成感を感じた割合も高かった。しかし、そうでない生徒も少なからずおり、「批判的」「協働的」「創造的」思考力の観点を意識しながら課題研究に取り組ませる工夫が必要であると考え。	目標は達成したが、「調査や実験に興味をもって取り組んだ」割合に対して、「仮説をたてての検証」の「段階3:よくできるようになった」の割合がまだ低めなので、更なる創意工夫が必要だと考える。																																							
学校関係者の意見	「課題発見力・論理的思考力の育成」について保護者より、「良くできている」「科学的思考力の習得等を普通科にも取り入れてほしい」「普段の話合い、会話などでも意識するとよい」等の意見があった。学校評議員からは「課題発見力・論理的思考力の育成」「批判的思考力」の評価方法について質問があり、探究活動をしていく中でやり取りした質問や返答を、各自が記述しておくことでより深い理解につなげることができるとの指摘があった。																																								
次年度へ向けての課題	「探究Ⅰ」では、7月の巡検研修が中止となったが、講師を招き代替とした。理数科学科・人文社会科学科ともに様々な課題に対してのアプローチの仕方を学んだ。2年次の課題研究にスムーズにつながるような計画になるよう検討している。 「探究Ⅱ」では東京研修が中止となり、代替プログラムが組めず課題が残った。次年度において代替プログラムも検討すべきと考えている。また、課題研究においては、6月からのスタートとなり、テーマ設定が遅れてしまったが、立案をしっかりと行い、より効果を得られるような工夫を継続的に行っていく必要がある。また、教職員間の共通理解を深める工夫も必要である。																																								

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和2年3月25日

## 令和2年度学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校生徒は礼儀正しく意欲を持って何事にも真摯に取り組むが、一方でさらなる自主性、主体性が望まれる状況にある。そこで、生徒が自分の能力・適性等を的確に把握し、高い目標を掲げ、意欲的に学習活動や学校生活に取り組むことを促す取り組みを継続している。

今年度の具体的重点目標としては、「家庭学習の充実と教師の授業力向上」、「基本的生活習慣の改善」、「健康的な環境づくりに努める知識や能力の向上」、「生徒一人ひとりの適性に応じた進路指導の支援とその実践」、「学校行事への主体的な取り組みと3年次における部活動からの切り替え」、「科学的思考力の習得」を掲げた。

自己評価では、10分野12項目の目標について、Aが5項目、Bが4項目、Cが2項目、Dが1項目であった。評価Cがついたのは、「家庭学習の充実」、「スマートフォン使用時間の目標達成度」である。家庭学習については、特に5教科の学習が本格化する2学年の生徒に課題が見られ、時間の確保や配分を円滑化させるよう助言する必要がある。スマートフォンの使用については、保護者の意見の中にも学習に有益な使用例について言及があり、家庭と連携しながらよりよい指導に結び付けていきたい。Dがついた「スケジュール帳の活用による規則正しい生活と学習習慣の確立」については、従来のスケジュール帳を用意する場合でも生徒の主体的活用につながるよう指導を工夫する必要がある。保護者の意見を聞きながら改善を図っていきたい。

Aがついた「個人情報掲載、著作権違反等の防止」、「進路目標（志望校）の設定」、「3年次における部活動からの切り替え」、「探究学習における課題発見力・論理的思考力の育成」、「意欲的学習態度の育成」については、継続的取り組みが成果をあげつつある。引き続き改善を図っていきたい。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

本校は、現在進んでいる高校教育の諸改革に対応しつつ、求められる役割を果たしていかなければならない。多岐にわたる要請に応えるには、真に必要な部分に注力できるようスクラップアンドビルドを徹底するとともに、これまで以上に教職員間の連携、学校と保護者の連携を深めていく必要がある。

次年度は「業務の改善と精選」の成果を活かしつつ、具体的方策を考えていきたい。